

ノアの物語

41layumi

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

虚無戦争。かつてリーグースによって引き起こされた。多元宇宙規模の大戦争。だが、戦争は終結。後に現れる時天空も撃破。しかし、ここから物語は始まっていくのだ！

目次

プログラグ

1

プロローグ

ある宇宙、そこに、彼らはいた——

「……分かるかノアよ！ 今の我々は『空間支配能力』得ただけでなく、全ての宇宙において究極となったのだぞ?!」

「『霸道神』も！ 『ゴズミツクバランサー』も！ 『第8の段階へ至った虚無の獣』も！ 『古き神々』共も！ 『渦動破壊神』も！」

「最早、我らの敵では無いのだぞ?! ならば、我らは……!!」

そこにいるは、『暗黒の神』。全ての元凶、名を『ダークサタン』。

そして、その目の前にいるのは、『光の神』、『ウルトラマンノア』。

「……違うのだ。サタン。それではいけないのだ！」

「何のために、『時天空』を倒した!? 私も含め、我らウルトラ戦士は、貴様の支配の為に戦った訳では無いぞ！」

そう、彼らは様々な多元宇宙を巻き込んだ、大戦争に参加したのだ。

名を“虚無戦争”。“ラীগース”が引き起こした。幾つもの多元宇宙、高次元宇宙を巻き込んだ大戦争だ。

そしてその戦争に参加した“霸道神”、“求道神”、“コスミックバランサー”、“魔神”、“高次元の理”。それぞれの思惑を持って、彼らもまた戦いに参加したのだ。それらの存在が仮に敵となれば、ノアやサタンでも相手にするのは不可能に等しかった。

だが、何故二人が、そんな絶対の存在たちを超えたのか・・・何故この戦争が終結したのか・・・その答えは・・・

・・・

「ハア・・・ハア・・・いつまで続くのですか・・・？」

疲れ果て、思わず弱音を吐く白き少女。彼女の名は“白き女王”。

どんな高次元存在ですら、彼女には叶わない。絶対の存在の一人である。

彼には主たる者がいるのだが、今回はその事は無しでこの宇宙戦争に参加したのだ。

「グシャアアア!!」

「!!？」

そんな彼女に襲い掛かるのは、〃ラーグース細胞〃。醜く、巨大なその姿は、正に怪物である。

そしてその怪物から放たれた光線は、白き女王に向かっている。

——だが、その一撃は届かない。

「え．．．あ、あなたは!?!」

透明で、まるで水を思わすような体。そう、それは〃色彩なき童女〃であった。

「．．．」

何も言わず、色彩なき童女はラーグース細胞の中に入り込み．．．破裂した。

「グシャアアア!?!」

「．．．まさかあなたが、助けてくれるとは」

しかし、まだそこには大量のラーグース細胞が立ちはだかっていた。

「余程の事らしいですわね．．．!」

——そしてその頃、別の多元宇宙では

「ハアアア!!」

「ギグヤ!!」

「グッ．．．!」

ギロチン状の刃となった黒腕。赤い髪に黒井肌。そして背中から生えているギロチンの刃。そう、彼の名は“藤井蓮”。

「まだいるのか……！」

目の前に立ちはだかるラーグース細胞の大軍。その数は最早計り知れない物だった。

——いや、そもそもこの宇宙を含め、様々な宇宙にそれら、即ちラーグース細胞が現れていた。

そして既に、この世界の“霸道神”や“求道神”の何人かは戦死しているのだった！それは白き女王の世界でも同様であり、実力者の何人かは既に戦死しているのだ。

そう、それほどにまで“ラーグース”は進化していたのだ……！！

——しかし、これは始まりに過ぎない……！！

——この戦争は、更に激化していくことになるのだから……！！